

新しい「小児慢性特定疾患医療意見書」に基づいた慢性心疾患の診療状況

(分担研究：小児慢性特定疾患の疫学に関する研究)

研究協力者：石澤 暲

共同研究者：於保信一

要旨：小児慢性特定疾患の治療研究事業が、全国的なレベルで統一登録されることとなり、慢性心疾患（主として先天性心疾患）の診療状況について、以下のような研究を企画した。この研究により、全国的なレベルで診療状況が把握できる。

見出し語：先天性心疾患、内科治療、外科治療、カテーテルインターベンション

研究目的：本邦における慢性心疾患（主として先天性心疾患）の診療状況は一部関連学会、各種班会議等の報告はあるが、かならずしも把握されていない。新しい「小児慢性特定疾患医療意見書」に基づき、治療の行われている疾患名、診療件数、診療状況を調査することにより、主な先天性心疾患の本邦における診療の実態を把握する。その結果から、今後の効果的な小児慢性特定疾患治療研究事業の推進に役立てる。

研究方法：対象は心房中隔欠損、心室中隔欠損、動脈管開存、心内膜床欠損、肺動脈弁狭窄、大動脈弁狭窄、ファロー四徴（肺動脈閉鎖、心室中隔欠損も含む）、三尖弁閉鎖、完全大血管転位、

総肺静脈環流異常、大動脈縮窄、大動脈縮窄複合（大動脈弓離断複合も含む）。

これらの疾患について、一年間の新規登録例につき、初回、2、3年目の意見書の所見から、以下の項目を検討する。

- 1) 初診時の症状
- 2) 診断の根拠となった検査の実施状況
- 3) 治療、検査の経過（経過観察のみ、内科治療、外科治療、カテーテルインターベンション、心カテーテル検査）
- 4) 転帰

この研究より得られる結果：この研究により以下のような結果が得られる。

- 1) 全国的な各疾患毎の診療実数が得られる。
- 2) 初診時の症状およびその推移が明らかとなる。
- 3) 諸検査の実施状況が明らかとなる。
- 4) 各疾患毎の治療、検査の内容が明らかとなる。
- 5) 転帰が明らかとなる。

以上の結果より、全国的なレベルでの小児慢性心疾患の診療状況が明らかとなり、小児慢性特定疾患治療研究事業の推進に役立てることができる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要旨:小児慢性特定疾患の治療研究事業が、全国的なレベルで統一登録されることとなり、慢性心疾患(主として先天性心疾患)の診療状況について、以下のような研究を企画した。この研究により、全国的なレベルで診療状況が把握できる。